

# みんなちがって みんないい



思い思いに自分の感情を爆発させる生徒たち

演劇部の好演おおいに光る！

去る令和七年六月十四日・十五日の二日間にわたり、第六十七回静岡県中部高等学校演劇公演が、島田市プラザおおるりを会場に行われました。静岡県中部地区の高校演劇部の合同公演で本校は初日のオープニングを飾りました。

どの学校も迫真の演技で見たえがありました。本校はオリジナル脚本で、さらに役者のパワーが溢れた熱演。終演後も余韻にひたる観客の姿が見られました。今号では大健闘した演劇部の皆さんの感想などをお伝えします。

## 演目 『マイナスジャンプ』(構想・脚本 31HR 小澤 優芽)

校内で偶然知り合った4人の高校生たちは、それぞれがかかえている悩みのせいで、友達と信じていた人に裏切られたり家族から冷たくされたりして、深く傷ついていたのだった。ところが…。

### <スタッフ>

舞台監督 大塚有莉  
照明 大塚有莉、小材悠維、  
山田知歩、杉本千依  
音響 平賀杏、竹澤亜衣  
衣装・メイク 大塚有莉、平賀杏

### <キャスト>

◇顔に痣がある佐々木由宇(岡村柑那)  
◇容姿に恵まれた戸田光瑠(鈴木駿仁)  
◇かわいいものが好きな三浦純也(長田凌汰)  
◇優等生を期待される服部青羽(小澤優芽)

## 【公演を終えて ～演劇部のみなさんの感想～】

**小澤優芽** (部長 31HR): 今回の公演では、脚本、キャスト、総務校とやること盛りだくさんでした。台本を50分間以内におさめなければならず伝えたいことをまとめられるのか不安でしたが、部員や先生と一緒に考えてくれ、とても良い作品ができました。キャストはすべて3年の部員で行い、約2年半共に活動してきた仲間と最後の舞台に立ててとてもうれしかったです。家でもセリフを覚えたり各キャラのプロフィールをノートにまとめたり。そのおかげで良い舞台にでき、他校とは違う「自分たちらしさ」を出せた公演でした。

**長田凌汰** (副部長 34HR): 大事なシーンでセリフが詰まってしまう結果としてあまりうまくできませんでしたが、仲間のフォローで助かりました。最後の公演で後悔は残りますが、無事にやりとげられ、1・2年生も全力で取り組んでくれて一生忘れることのない思い出となりました。絆の深まりを感じています。準備不足が目立った(壁の作成や小道具の確認)、演技・姿勢・立ち居振る舞い等の詰めの甘さやキャラクターの深掘りの浅さは反省点です。もし次があるなら、キャラクターをよく理解し、テンポよく、



最後まで集中できるようにしたいです。演劇以外の部分では、視野を広く持ち、全体の流れの確認、必要なことを正しく認識する力を身につけたいです。次は後輩たちがどんな思いを経験して、どんな物語を作っていくのか楽しみです。



**岡村柑那 (32HR)**:私が演じた由宇は、性格こそ初対面の人に対する私に似ているものの、境遇がまるで違いました。そのため台本から彼女の心情を掴む事が初めは厳しかったです。読み合わせをしていく度に段々彼女を理解するようになりました。本番では1つだけセリフを忘れてしまい、優芽にサポートしてもらった結果になりましたが、無事に終わられてよかったです。公演中は、練習中に何度も言われた「相手の話をしっかり聞く事」を意識し、できる限りで表情をがんばりました。表情も動きと同じで大きすぎないじゃないとお客さんに分かりにくいのですが、あの時の私にはあれが精一杯でした。批評カードの中に「表情管理がよかった」と書いてあるのがあり嬉しかったです。14日は自分達の公演を、15

日は放送進行や舞台係をまとめるなどの総務校の役割を務めました。失敗もありましたが、今回の公演を経て1、2年に色々な事を繋げられたんじゃないかと思います。ここまでがんばってこれたのは、部活の皆と、先生と、そして親の協力があったからです。去年は、皆より劣っている所が多いと思ったのか「いっそやめてしまった方が」とか「もし1年の時に別の選択をしていたら」など考えている日がありました。でもそうしなかったのは、周りの皆のおかげです。演劇部に入り優しい先輩方に出会えて、自分の好きな事を存分にできて、頼もしい後輩が入ってくれて、素敵な仲間に出会えて…。もう、私はこの選択を後悔する事はきっとありません。後輩達も来年こんな思いを持っていてほしいなと思います。

**鈴木駿仁 (33HR)**:僕にとって最高の劇になりました。練習ではなかなかキャラクターがつかめず苦戦し、正直うまくいかないことが多すぎて自分にはできないと何度も思いました。けれど仲間が励ましてくれたので、挫折せずに最後まで続けることができました。演技以外でも色々なところで仲間が助けられ、本当に感謝しきれないです。本番では緊張しましたが、お互いにフォローし、自分の思いを演技に込め楽しく演じました。これで引退なのは寂しいですが、仲間達と一緒に公演を終え、演劇部のみんなと演劇ができて最高でした。



**大塚有莉 (22HR)**:初めての舞台監督を任せられ、先輩たちに迷惑をかけたけど無事に成功してよかったです。一年生に裏方の仕事を教えつつ、先輩たちのサポートをしながら自分たちの仕事もやらねばならず、大変だったけれど楽しかったです。  
**平賀杏 (23HR)**:3年生最後の舞台だったので、今までで一番良い公演にしたいと、裏方の音響とメイクをがんばりました。特にヘアメイクは、役ごとに1人1人こだわりをもって取り組みました。1年生とも一緒に音響をやり楽しかったです。  
**小村悠維 (11HR)**:総務校として司会や舞台係を務め、「マイナスジャンプ」の公演では照明を担当しました。タイミングをみはからって照明を動かすのは少し大変だったけど、先輩に褒められてうれしかったです。  
**山田知歩 (13HR)**:裏方として照明をやりましたが、リハーサルだけでは覚えるのが難しく、サポートしてもらうことが多かったです。これからは先輩たちからいろいろ学び、できることを増やし、先輩たちのようになれるよう頑張ろうと思いました。  
**竹澤亜衣 (14HR)**:技術と知識が全くないまま音響を担当し、不安でした。本番まで何度も練習を重ね、夜遅くまで練習する日もありましたが、仲間と励まし合ってきました。私達もお客さんも感動するすばらしい公演になったと思います。

### 【演劇部の舞台をみて～取材者の感想～】

- ◇皆それぞれ悩みを抱えていて、その悩みを仲間達に相談し、気持ちを楽にするために一斉に叫ぶシーンが心に残っています。生徒たちが対立する場面では、本物のケンカを見ていると思えるほど大声を出していたり顔を近づけてにらんでいる場面の演技がうまかったです。迫真の演技を見られて最高でした。(内田悠歩)
- ◇この劇をとおして、悩みを打ち明け合えるような仲間のいる大切さについて考えました。人はそれぞれが違った悩みを持ち、共感されなくても自分の気持ちを打ち明け聞いてもらうことには意味があると思いました。また、セットや小道具などで表現が深まっていて、より理解しながら見ることができました。(萩原楓)

